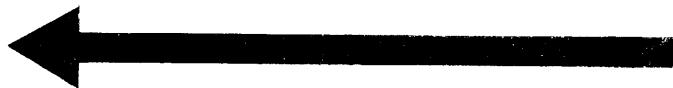
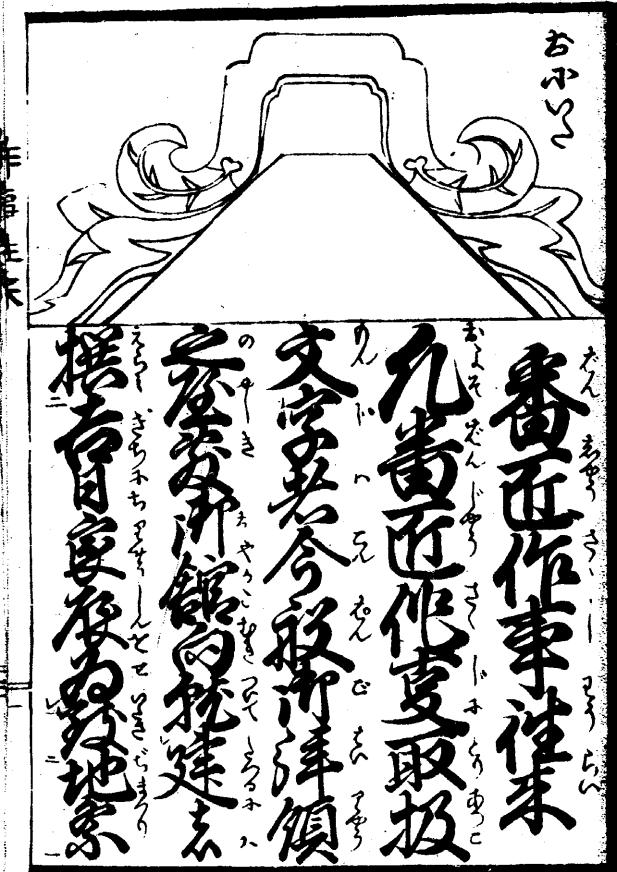


B 21

2553





造営堂木品積得事

付垂葉往来

柱の太さ三尺面
才二尺を下
又木す二十尺
束近柱へ至り
ニトヨリ
外側様へ見えしら
ハトヨリ
貫の太さ六寸
又木す三十尺

棟梁修理工人立
今仙木枕大継般
務師鑄物後根葺
風師左官石切檜方

頭貫の太さハトヨリ
四寸四分トヨモ
墨筋の太さ樹界
又木す二十尺
虹梁の大さ木す下
又木す二十尺
木鼻の太さ木す下
又木す二十尺
木鼻の太さ木す下
又木す二十尺

金師方殿物師建
楠板柱全絆ハキ付
家化用木品木先
檜櫻板櫻板櫻

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

大牛の太きぬいの木
二本の木が並んで立つ
卷牛の大きな木がある
木二本が並んで立つ
財木の木々が並んで立つ
木の木々が並んで立つ
七ト又ハトモトハ巻
木の木々が並んで立つ
横の木々が並んで立つ

連遠種車力地形
根伐姫起出切生

切る木不刻案石入

冬食直棒附眼突

拳鼻

象鼻

唐松ね松柏桂柏
子栗赤櫻多紅松

南物平柏木に柏丸

左完辨松子柏木

寒竹荀升代松枝

中川の御内侍
かわくひめをとづく
木更津貢入見
木更津貢入見
本色の花見
本色の花見
のそくがいをとづく
そくがいをとづく
第一又かみは下
ハトとづくもあ
一平塙水盛を見
三之種屋六尺守
系間ト三面間

博風板の花見
さかへす取又トヘト
山也宮社祠神門
唐洞ちる石鳥居
巴脚ちる居ニ病ちる居
神明華表祠ちる
のうりくま枝まきの下
一萬也の大井戸
一間社二間二方社向造

又六ト五トあるとわ
太斗の木をやど
鬼板懸裏ハモスヘ
一ニ枝四方又三枝
のやうへ二枝半やもれ
も「めりき」
厚なぐまみのかん
六角形のやうへ
葉吹くとあらわのま
るのよこはのま
流連あらゆる大社
神明造り社屋廢
幣殿内陣外陣門柱
漢機ノ床と檀神殿
神樂殿等類兩殿難



大瓶 東大瓶八又
九トマヒハタツ
様經柱 大柱御柱
面うちひきの本廻
外づくまく木板のあ
つりシトウの板を
あくね五トモニ米
やどふかトヘヒト御板
前へかくおー
方立木立木立木立
九間宮殿須弥置
東食堂西金堂
堂食堂天右堂
堂渡磨堂新堂
經堂輪藏圓滿堂

下トスヒシトタリ
一長押のまゝ柱の下又
九トモヒキハスラ一
トス一トモナ
内法ハスラアリ
一露盤ハスル紙をさす
七ツ又セラミ刻ラアリ
地盤ハスムシトモナ
トのカミスル
多々根を障限有板を起
右の剥そ本筋モテギー

樓殿樓梯檜堂
三重塔多宝塔七重
九重ナ香拾二室多
露塔ノ塔小塔花巖
信參塔遊龜塔輪

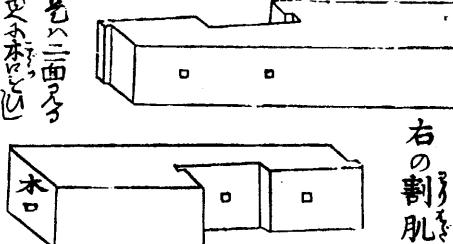
追挾大栓經

是ハ法折
モ堅ム
キセテ被制
キニヘ徐急面
余次第引
を取ム
シテ引
を取ム
シテ引



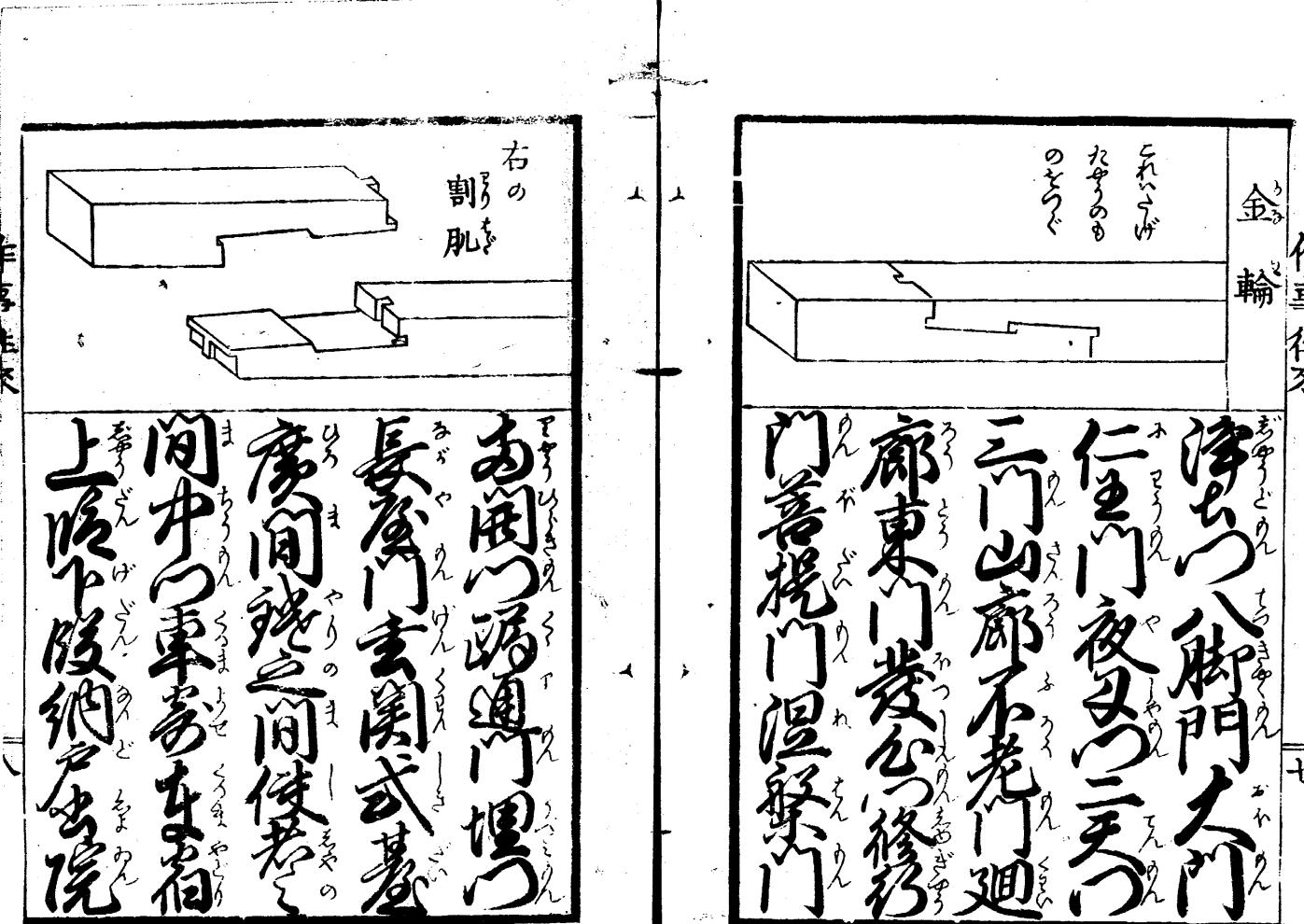
塔真味塔相輪塔
中水堂二化堂造
行雲法苑中堂
松金鷲堂西澤則
水登井戸金形唐松

右の割肌

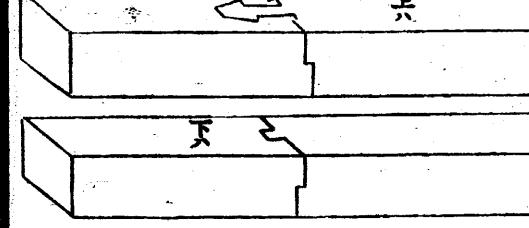


是ハ二面
木本面
木引面
木引合面

和様當世様也打造
腰屋桜造院木門
冠木門平櫻市
白櫻市棟門窟門
御門樓門葉生

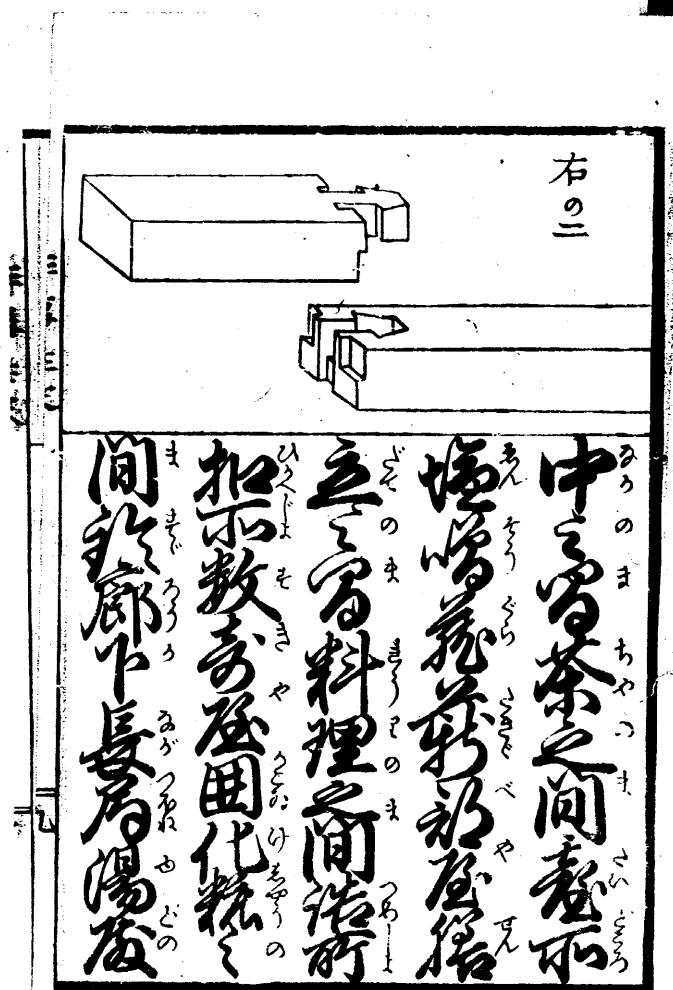
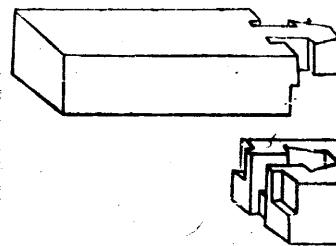


櫻の簷枝間木板
袋棚達板掌通
板西様板底板
四半一小柱板
寢室向板之間



右の二

中宮茶之間板
煙管茶之間板
主宮料理商行
架敷主庭化粧
間板廊下長房湯屋



左の二

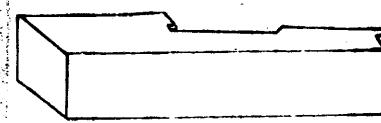
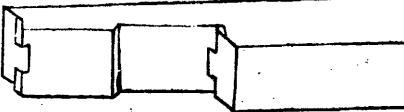
尻狭

小用不拘極竹橋妻
長家石造平塗壁
家繩城森甚階級
樂座鏡之間物見窓
玄に廻外櫻名居場原

毛
筋
筋

狭

右の部
蓋蓋蓋圓焼折又
城郭主附天守或主
三重櫓波櫓多の爲
城主徒間波櫓多の爲
石徒間波櫓多の爲



伊須賀

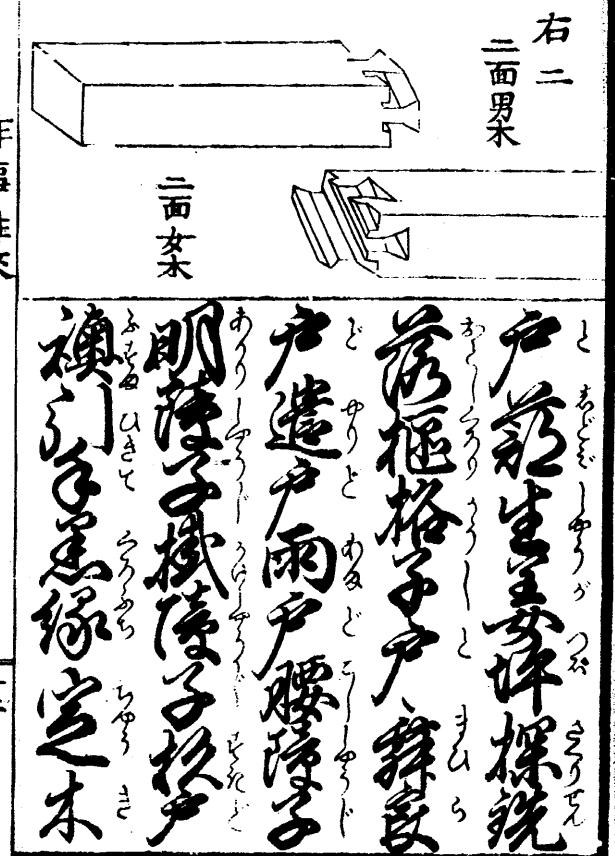
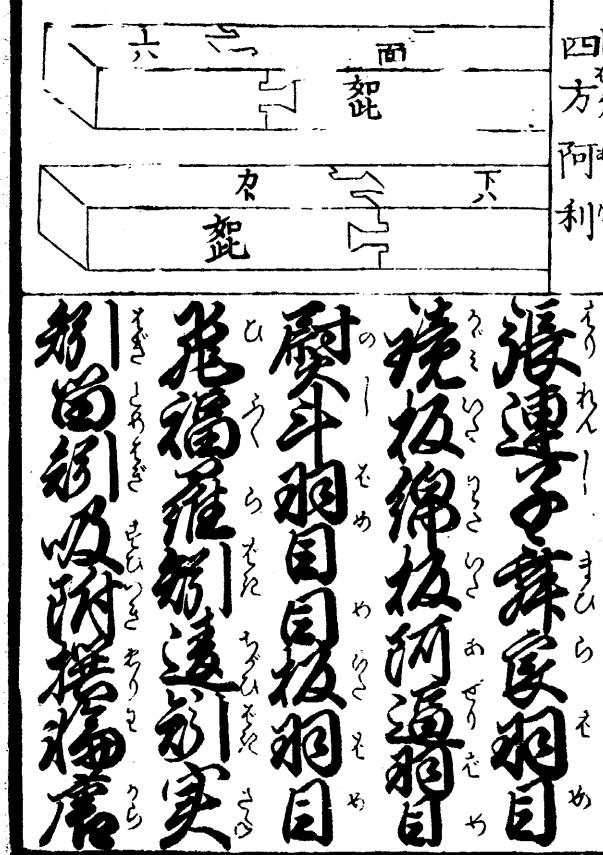
六

下

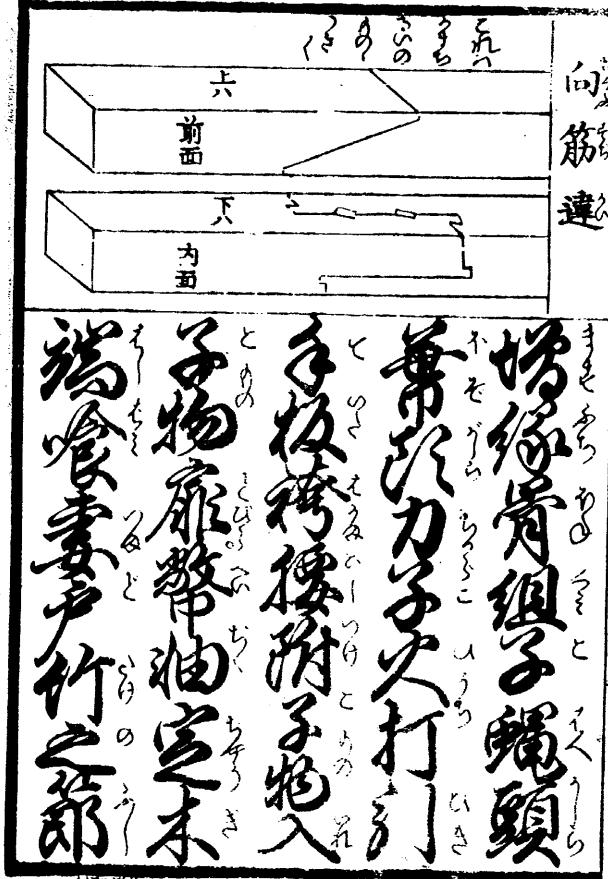
つみ
篠地革足腰切板腰
とべり
太簾竹簾猿頭腰
かや
角柵狗寄天井若
くづ
蛇腹腰板折子格
ちやく
子組格板并野并

右の二
約本裏木織常辟
約後約半縁間
鉤錐指窓半格子
半窓半密木溝子
馬角連立密双連子

四方阿利



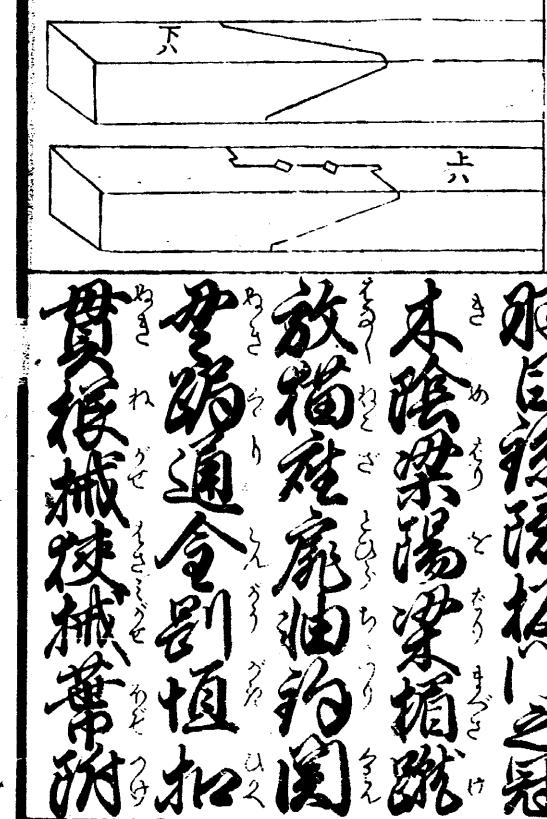
筋連

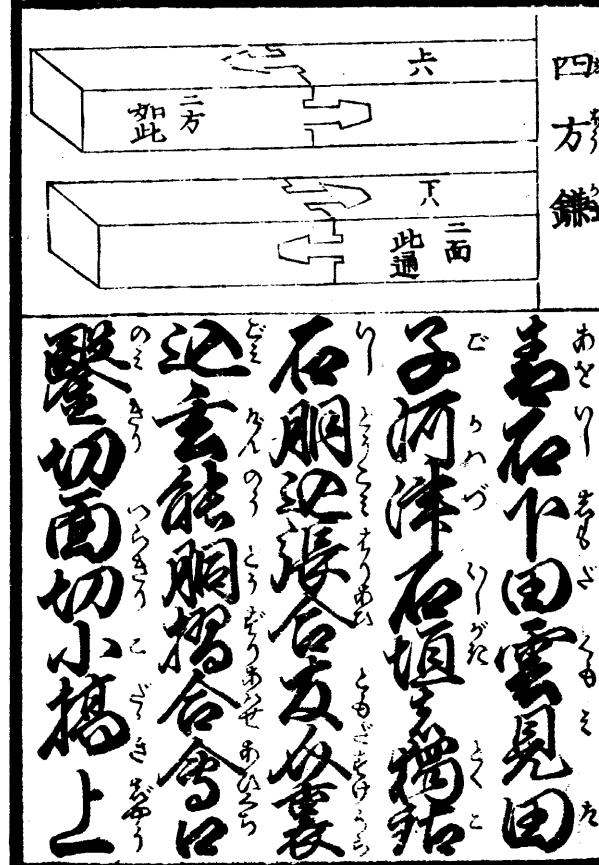


右の
割



作事往来
門取伊須賀





女童
牛糞

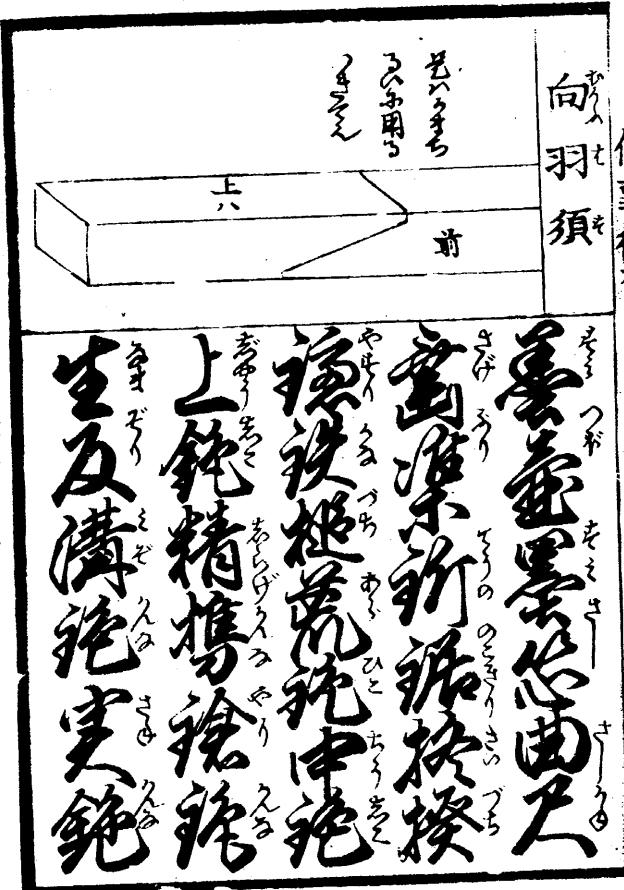
遣

差
あさみ
の勇
じきき

戸番の木彌二重三
毛樹子射牌打引
被形被物獨り年
極邊石踏陰陰荒
打沙榜大金小直事

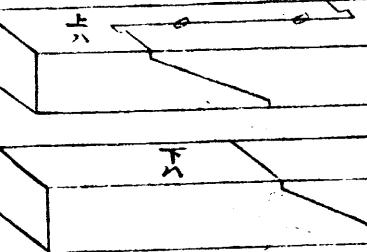
不の二

冷上塗ノ漆角深
喰流漫小正板事
様傳私太板不見
者能絹布板柱行
新板本造初被板

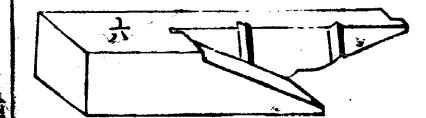


宮島継

段継物を刺繡地切
絹精中塗村並格
漆上塗縫附骨鈎
打内縫強裏押袋



右の二



もあらの宮
森造屋の内

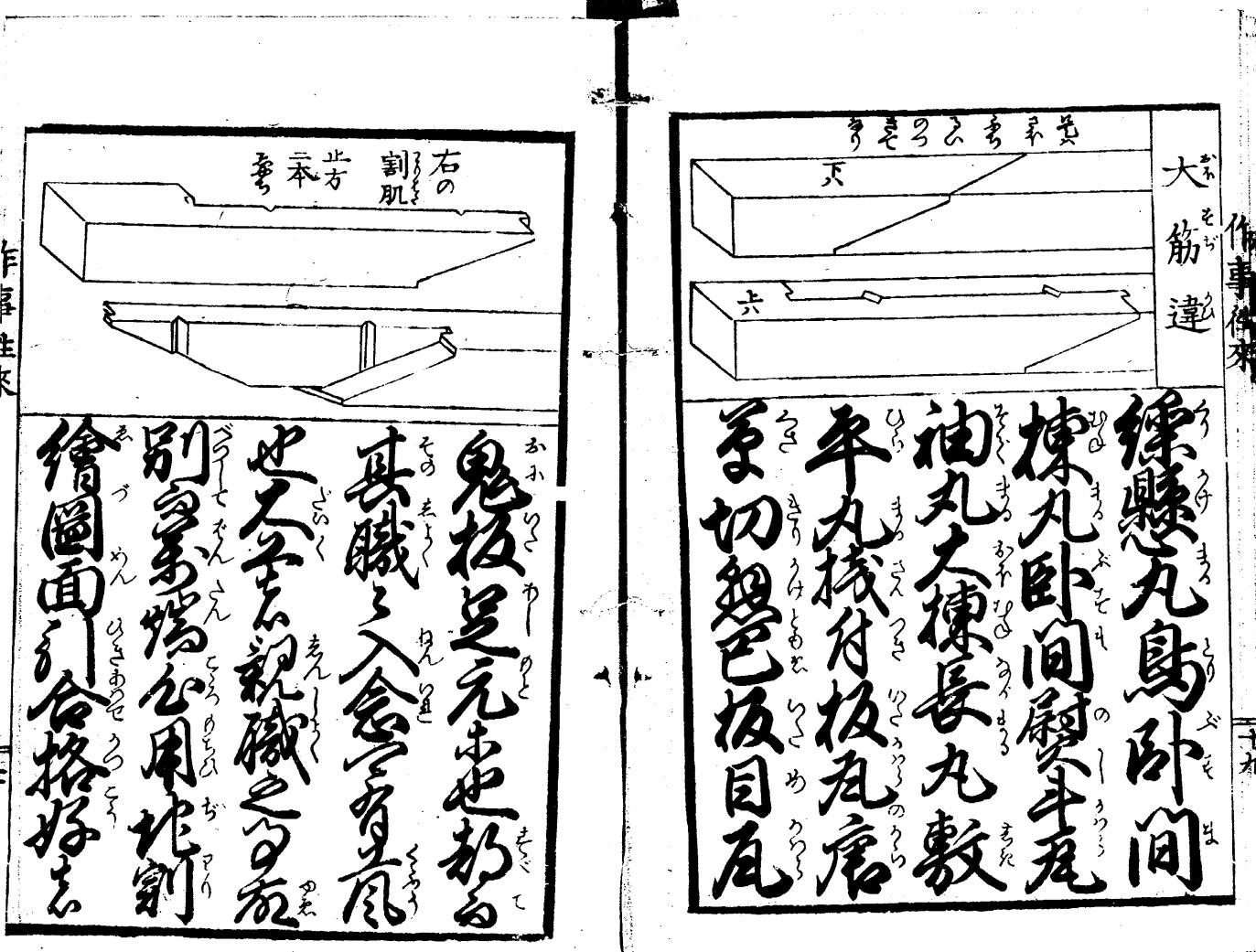
絹二編袋と腰巻
墨人物山水画
彩色筆と黄土胡
粉雲絞と金綿
巻極彩色車輦毛

四方金輪

和子令沈消泊大
燒焦色右桐油彩
色箭條沉令形石
灰檣拭帛雜巾木
賊馬連洗也松又

瓦者唐室巴空極
箭連倫遙向画戸
蟹戸箭遙画戸
勝勇面戸式之平
隅巴南室巴狹弓

右の二



四方松川

森内ひ角
とうふらう
きく止る
ひだれ流
は倒れ區
ちを根
つぶ用
ふすみ

規矩離放其流義
之宣法、のちに於亦
杖木茎杖通挽れ
割枝を金輪磨
様半絶翁絶連枝

右の二
大絵絶品折置割
渴死多葉繪様
最仕事也供又據
上之變或真事
枯樹水絶象

雲霞經

第一編

弓箭之慕目之禱
雁股弓教玉女
櫛捧鶯舌方聲
棫天余千歲棟
蓋棟永株法枝株

色
本
木
色
本
木
色
本
木

色

本

木

色

本

木

色

本

木

水流

經

第一編

右同抄正
下がまうと
達さるや
ちやくは
仕様がある
こまくと
そくまく

陽林網棟
候事不奪
美代不朽
同生
用字体
此化
清限界

陽林網棟
候事不奪
美代不朽
同生
用字体
此化
清限界

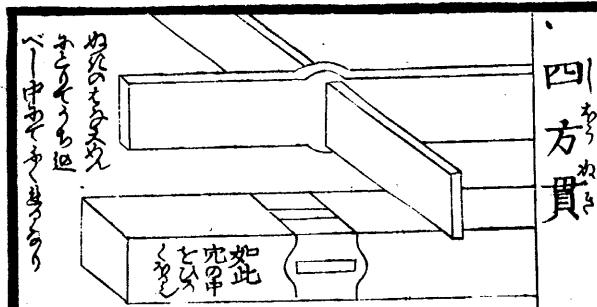
四方貫
仕事在所

之先づ書紀畢

明治十五年二月十六日及刊行届

同年三月出板

定價十二錢五厘



編輯人	整軒玄魚
圖画人	大賀範國
原板人	岐阜屋清七
反刻人	大阪府平民 小野 藤吉

大阪府平民
小野 藤吉
南区南岸屋町十七番地